

令和5年第421回信濃町議会定例会3月会議 会議録（4日目）

（令和5年3月7日 午前9時45分）

●議長（佐藤武雄） おはようございます。ただいまの出席議員は11名であります。定足数に達しておりますので本日の会議を開きます。なお、森山議員より欠席届が提出されております。本日の議事日程はお手元に配布のとおりであります。日程第1、通告による一般質問を行います。

通告の6、伊藤博美議員。

- 1、給食費の無償化で子育て支援を
- 2、事業者、農家に緊急支援を求める
- 3、補聴器購入助成は住民の願い

議席番号4番、伊藤博美議員。

◆4番（伊藤博美） おはようございます。議席番号4番、伊藤博美でございます。町独自の子育て支援と拡充について、お伺いいたします。鈴木町長は昨年12月の会議において、当面の目標として4点を挙げられました。2つ目に挙げたのが子育て支援を取り上げ、学校給食費など子育て世代への支援等を強化すると述べております。また、今年になりまして広報の新年号の町長就任あいさつでも、現時点で取り組むべき課題として、子育て世代への支援策の強化を挙げております。着実に対策を講じていく考えを述べておられました。これら一元の町長の発言を考へて、令和5年度の当初予算に保護者負担軽減事業で、学校給食費の一部補助として408万4000円を計上されております。対象としては子どもたちの第二子以降を対象とし、その半額を補助するというものであります。町長に伺いますが、予算化した408万4000円と、対象を第二子以降ということに限定した根拠はどこにあるのか、これを最初に伺います。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） おはようございます。よろしくお願ひいたします。ただ今伊藤議員からのご質問についてお答えいたします。給食費に対する補助でありますけれども、ただ今伊藤議員がおっしゃられたとおり、令和5年度の一般会計当初予算案の中において、多子世帯、お子さんが2人以上おられる世帯の第二子以降のお子さんの学校給食費、これについて2分の1を補助していきたいということで、計上させていただいております。どうしてそのような形に収めたかということではありますが、これまでも申し上げているとおり、一気に無償化するということは町の財政事情の中では難しいと考えまして、計画的に、そしてまた段階的に補助のかさ上げを考えていくということが現在の町の情勢から考えると適当ではないかということで、教育委員会の皆さん、また財政担当の皆さん

令和5年第421回信濃町議会定例会3月会議 会議録(4日目)

んと様々なケースについて打合せ調整する中で、この線を見出したという経過であります。

●議長(佐藤武雄) 伊藤議員。

◆4番(伊藤博美) 段階的にまた計画的に考えてのことだということでございました。ということは、これからの中でもこうした計画的段階的に給食費の無償化については検討を加えて、そしてまた考えていくということで受け取ってよろしいでしょうか。

●議長(佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長(鈴木文雄) ただ今伊藤議員がおっしゃられたとおりであります。町の財政状況等踏まえてできる所から対応していくと、そういう考えでございます。

●議長(佐藤武雄) 伊藤議員。

◆4番(伊藤博美) 一番の問題は財政問題であろうということは理解しております。ただ、今の経済状況を考えた場合に、各家庭の経済状況が非常にひっ迫しているという中で、思い切った形での計画を私は出すのかなと思って実は期待をしておりました。しかし、残念ながら限定された形でのものでしたし、私は金額的にも正直非常に不満です。できれば全世帯、全校生徒を半額ぐらいはスパッと町の財政のやりくりをしてでも、これは行うべきではなかったかなというのが私の本心の正直な気持ちであります。ただこれからの中でのことですが、とりあえずこの段階で落ち着いて、しばらく様子を見ながら財政的事情というのを考えていくんだと思います。ただ、財政的事情を考えてどのくらいこれから町の財政事情が許していくのかということ考えた場合に、私は必ずしも明るい方向とは思えないんです。やはり町の財政のひっ迫した状況を見ますと、これからの段階的に広げていくということはなかなか考えにくい、それは今までの状況を見ましてもそうですし、これからの経済状況見てもそうではないかと思っております。ですから町長の決断、これ私は政治決断だと思うんです。この段階においてこれだけのものをきちっとした形で子育て支援対策として出すんだと、こういう政策を出すんだということをはっきりとした形で町長の決断を求めたいと思っておりますがいかがでしょうか。

●議長(佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長(鈴木文雄) 決断せよというお話ではありますが、繰り返しになりますが現時点では今すぐに無償化にするということは難しいと考えておりますので、今後引き続き検討させていただきたいと考えております。申し訳ありません。よろしく願いいたします。

令和5年第421回信濃町議会定例会3月会議 会議録（4日目）

●議長（佐藤武雄） 伊藤議員。

◆4番（伊藤博美） 教育委員会にお伺いしますが、第二子以降の対象世帯は何世帯にあたるのか数字が出ますでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 外谷場教育次長。

■教育次長（外谷場佳子） 数字のことですので、私からお答えをさせていただきます。世帯数ではカウントしていないのですが、対象児童生徒として現時点では129名の方が対象になると見込んでおります。

●議長（佐藤武雄） 伊藤議員。

◆4番（伊藤博美） 129名の児童生徒ということでありました。これは当たり前のことで確認するんですが、ともすると間違いが起きるのかな、私だけかもしれませんが間違いが起きるのかなということもありますので確認だけですが、長男次男三男、あるいは長女次女三女とかいますよね。長男がもう既に高校生だと、次男と三男あるいは次女と三女が中学小学校にいたという場合には長男はあれですけど、第二子第三子にあたる方はこれは対象になるんだという考えでよろしいんですね。

●議長（佐藤武雄） 外谷場教育次長。

■教育次長（外谷場佳子） 現在、考えているのは15歳以下、いわゆる中学三年生、信濃小中学校では9年生以下のお子さんを1番目から数えるということです。第一子が例えば高校生でありますと、その高校生の方は除いて兄弟の中では2番目かもしれませんが、例えば中学3年生の2番目のお子さんが今回の制度の中では1人目と数えると、制度設計をしているところでございます。

●議長（佐藤武雄） 伊藤議員。

◆4番（伊藤博美） これ、私が考えているものとちょっと違うんでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 外谷場教育次長。

■教育次長（外谷場佳子） 伊藤議員さんがおっしゃるのは、兄弟の順番で上から一人目、二人目、三人目とお考えになって、第二子、第三子とお考えになっているかと推察いたしますが、こちらの補助金制度の中では15歳以下のお子さんの順番で数えさせていただくということによってやっております。

令和5年第421回信濃町議会定例会3月会議 会議録(4日目)

●議長(佐藤武雄) 伊藤議員。

◆4番(伊藤博美) 私も勉強不足で誤解をしていた点もあるのかと思います。私は単純に考えて、その家庭の長男次男三男、あるいは長女次女三女がいる場合には、長男長女が例えば高校生だったと、これは対象にならないと第一子として。しかし、その過程の第二子第三子にあたる次男三男、あるいは次女三女という方は中学や小学校にいたとしても、それは全部対象になるのかなというふうに考えておりました。今説明を聞いていますと、あくまで15歳以下なんだという方を対象にしている、その家庭で長男が高校生、家庭で見れば次男、小学校に三男がいたとしても、中学校の第一子是对象外だということなんです。それで、三男の小学生は第二子だからその方は対象になるんだと、そういう見方でよろしいんでしょうか。

●議長(佐藤武雄) 外谷場教育次長。

■教育次長(外谷場佳子) 伊藤議員さんがおっしゃるとおりでございます。

●議長(佐藤武雄) 伊藤議員。

◆4番(伊藤博美) 分かりました。対象がだいぶ狭まれてくるんだというのが率直な意見であります。もう1点教育委員会にお伺いしますが、2月27日付で保護者の皆様へ給食費改定のお知らせを出しております。一律一食30円を値上げという内容であります。この説明を求めます。

●議長(佐藤武雄) 佐藤教育長。

■教育長(佐藤尚登) 給食費の値上げについてご説明申し上げます。給食費は毎年開催しています給食センター運営委員会に、値上げが必要と考えられる場合に、値上げについて教育委員会が諮問し、そこでの審議を経て運営委員会から出た答申をもとに教育委員会で決定しております。それで前回の値上げは令和2年度に行いまして、今年度まで値上げせずに踏みとどまってきたといいますか、今年度も早い段階で物価上昇がみられて、給食費がどうなるかというご心配もいただきましたけれども、なんとか4年度内は工夫して年度途中で上げるということはない、頑張るということで今日までできました。さる2月に、運営委員会にどう諮問するかということを経営委員会の中で検討したんですが、4月以来の年度を振り返ってみますと、物価上昇はこれはもう押しとどめようもない状況でして、教育委員会としては当初15円程度の値上げはいかがかということで運営委員会に諮問いたしました。ところがその後の運営委員会での議論の直前ぐらいでしたか、令和5年度の米価の大幅な上昇が見込まれるという情報がありまして、町内の給食に用いているお米は、町内の農家さんの特別栽培米を非常に安い値段で提供していただいて現在の給食費にとど

令和5年第421回信濃町議会定例会3月会議 会議録(4日目)

まっていたんですが、それが肥料の値段が急騰したということで令和5年度は到底現状維持は難しいというお話がありまして、当初15円の値上げはいかがかということで諮問したんですが、その運営委員会の中では15円ではまた年度の途中で上げるというような状況も十分に考えられるというような議論がありまして、最終的に30円、積み上げていきますと31.36円ぐらいを見込まなければいけないのですが、その部分はなんとか工夫することで飲み込もうということで30円の値上げ答申を教育委員会にいただきました。教育委員会でそれをやむを得ないということでお認めいただいて27日でしたか、教育長名で保護者の皆様に改定についてお願いをしたところでした。また、お米だけではなくて牛乳の値上げ、牛乳1本の値段の上昇が2月になって9.27円の上昇が分かったものですから、15円の諮問に対してそこに新たに9.27円が加わってきたとそういう状況です。経過については以上です。

●議長(佐藤武雄) 伊藤議員。

◆4番(伊藤博美) 今、教育長からご説明を受けました。米価と牛乳が主に上昇しているということで上げざるを得ないと。その裏には農家の皆さんの今まで大変な苦勞を掛けて、子どもたちのために米価を提供していただいていたんだと思うんですが、それがなかなか追いつかなくなったということだと思います。全ては日本経済の中における肥料の高騰、物価上昇がこういうものを押し上げてきていると、いよいよ私たちの本当の身近なところにもその影響は大きくなってきていると言わざるを得ないと思うんです。町長にお伺いしますが、一律一食30円の値上げということですか。今まで270円から315円ぐらいで保っていたものが、全て上げるということでした。これ財政的に多少なりとも町の方として緩和できるような方策というものはなかったんでしょうか。

●議長(佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長(鈴木文雄) 今回の給食費の値上げにつきましては、本当に心苦しいといえますか、申し訳ないと思っております。しかしながら、現在の給食費の単価につきましては、材料費などを積み上げて、さきほど説明ありましたとおり、米、牛乳、あるいは野菜等もあろうかと思いますが、そういったものの積み上げの中で価格設定をしているということでもあります。給食センターの運営にも直接関連するお話かと思いますが、今後その給食を構成する要素、いろいろあろうかと思いますが、中をもう一度改めて見直す中で、給食費の適正化に向けてみんなで取り組んでいきたいと思っております。

●議長(佐藤武雄) 伊藤議員。

◆4番(伊藤博美) 経済状況の推移を見ながら考えていくということの答弁でありました。私は教育委員会から一律30円値上げするということが出て見た時に、正直に言って

令和5年第421回信濃町議会定例会3月会議 会議録(4日目)

408万4000円というのは中途半端だなと思いました。これは30円を上げるということを見越しての408万円措置だったのかと考えざるを得ないんですけども、そんなことはありませんか、町長。

●議長(佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長(鈴木文雄) そのような関連は全くありませんでして、408万円の補助を決定したのちに、給食費値上げについてのいろいろなお話が出てきたものですから、私どもとすれば補助は補助、給食費の単価は、先ほど申し上げたような要素の中で決まったということですので、全く関連はないと私は考えております。

●議長(佐藤武雄) 伊藤議員。

◆4番(伊藤博美) そういうふうな考えではなかったということですが、ただ端から見ているとどうしてもそういうものが考えざるを得ないと。30円というのは私は大きな値上げだと思うんですね、正直にいいまして。これは全部の子ども達から頂くわけですから、昨年9月でしたか給食費問題で私行きました時に、議長の方から年間の205日という答えがありました。30円をかけますと6150円が全ての生徒の値上げになるというふうになります。これ換算して令和5年度の児童生徒数は私も分かりませんが、現在438名とその時は伺ったと思うんですよ。来年度にかけては何名の児童生徒がいるのか、全体としてどのくらいが値上げ額となるのか、そのへんを示してください。

●議長(佐藤武雄) 外谷場教育次長。

■教育次長(外谷場佳子) 令和5年4月1日現在の児童生徒数は、410名で今のところ見込んでおります。今伊藤議員さんがおっしゃられた通り、年間一人あたり6150円上がるということになります。全体で252万1500円の値上がり額ということになるかと思えます。

●議長(佐藤武雄) 伊藤議員。

◆4番(伊藤博美) 約252万円ということでありました。また町長に財政をお聞きしなきゃならないんですけど、仮にこの値上げの252万円を、決定通知として出したんでしょからもらおうとして、町の財政の方でこの252万円ほどの追加予算というか、そういう形でこれはカバーできないものなんですか。

●議長(佐藤武雄) 鈴木町長。

令和5年第421回信濃町議会定例会3月会議 会議録(4日目)

■町長(鈴木文雄) ただいまの伊藤議員からのお話でありますけれども、現時点では来年度予算にそれを反映するという事は難しいと考えております。

●議長(佐藤武雄) 伊藤議員。

◆4番(伊藤博美) 難しいということでした。ただ補正などこれからの中でありまして、この252万円が保護者負担になるわけです。負担率が増えるわけですから。その分は町の方でしっかりと受け止めていただいて、財源的に私はこの財源を使えということとは言えませんが、まだ令和4年度決算は出ておりません。令和3年度決算で、例えば教育予算ですとあれは事務局費から出ていると思うんですけども、その計算でいきましたら令和3年度においては1200万円ほど使って必要でないお金というのが出ております。あるいは財政調整基金も出ております。当然、財政調整基金は1億2000万円くらいあって、そのうちの規程によって6000万円は財政基金の方へ積み立てております。6000万円はそのままになっておると思うんですけども、そうした資金を繰入ながら252万円というふうな額を検討材料の1つとして、これからの中で考えていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

●議長(佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長(鈴木文雄) 今、伊藤議員から示唆に富んだお話をいただきましたので、今後そのような財源についても、選択肢の1つとして検討してまいりたいと思います。

●議長(佐藤武雄) 伊藤議員。

◆4番(伊藤博美) この給食費の無償化ということは、元々は過疎の町村から始まっているんです。全国的に一番進んで多くなっているのは、群馬県が町村的には自治体的には多くなってきたのかなというふうに思いますけれども、今では全国で254の自治体に広がっております。過疎の村から始まったものが今は都市圏の方に非常に増えていております。東京の23区内でも6つか7つくらいの区がこれを推し進めるということを決めました。それだけ大都会の中では諸物価の値上がりというものが大きくて、全て買い求めるとなると非常に負担率が高いんだろうと推測されます。長野県下におきましては、小学校で13町村、それから中学校で11町村と聞いております。ただ実施している自治体というものは、それほど財政的に余裕があるわけではないんですよ。前回も申し上げましたが、軽井沢は別格としてあとの町村は財政的にそんな余裕のあるような自治体ではないと思っております。しかしながら、かつてない物価高騰の中で、給食費というものが各家庭の大きな負担になってきているという点では、私も町長も共用できる部分ではないのかなというふうには思っております。2月8日でした、明るい県政をつくる県民の会という全県的な会ですが、この会が長野県と県の教育委員会に、小中学校

令和5年第421回信濃町議会定例会3月会議 会議録(4日目)

給食費の無償化を求める請願と、それから署名2万5000余りを添えて第一次分として提出をいたしました。もちろんこの中には信濃町での署名分も含まれております。全県的には児童生徒はおよそ15万人と言われておりますから、そのぐらいの署名を集めるというふうに言っておりますので、我々もこれからの中で協力していきたいなと思っております。この中で、県の内堀教育長が、今まで請願あるいは署名用紙を持って行っても県の教育長が直接受け取るなんていうことはなかったんです。それが今回は教育長自身が出てきてしっかりと署名用紙と請願を受け取ったと聞いております。そしてその中で県の内堀教育長が、仮に給食費を全県的に無償化した場合に、どのぐらいの費用がかかるのかということで、または全部ではないけれど一部の補助、これも県が行うとしたらどのぐらいの費用がかかるのかということでシュミレーションをしているんだということを言われております。また、国に対しても県として意見書をあげていきたいという返答もあったというふうに報道されております。今まではこうした無償化の件について、私ども県議会の方で議員を通じてお願いして取り上げていただいているんですが、このシュミレーションをやるとか、あるいは国に対して意見書をあげるというような答弁は一度もなかったんです。それだけ県の教育委員会も真剣になって考えているんだなということは伺えると思うんです。そこで町長に伺いますが、町長も信濃町の財政は厳しいと、その中で今回そうした補助を一部であります計上したということも含めて、県に対して支援を求めていく考えはありますか。

●議長(佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長(鈴木文雄) 今後さまざまな場面、あるいはルートを通じて県あるいは国の方へ要請していくのは当然のことだと思っておりますので、広域連合をはじめいろいろな場面で情報を共有しまして、しかるべき対応をとってまいりたいと思います。

●議長(佐藤武雄) 伊藤議員。

◆4番(伊藤博美) ぜひ県、あるいは国の方に要請をしっかりとやっていただきたい。これ無償化でなくても、半額補助でもいいですからそういうこととして、求めるのは無償化ですけれども、しっかりと行っていただきたいと思います。そこでもう1点、町として県の方では財政的にどういうふうになるかとシュミレーションを作りたいということでしたけれども、町としてこうした財政的なシュミレーションを立てるような時ではないかと思うんですが、町の方で出せる考えはありませんか。

●議長(佐藤武雄) 外谷場教育次長。

■教育次長(外谷場佳子) 伊藤議員さんのシュミレーションというお話でございましたが、教育委員会といたしましては、いくつかのパターンを計算させていただいて、今回

令和5年第421回信濃町議会定例会3月会議 会議録（4日目）

令和5年度の当初予算に反映させていただきました。その中で全額補助ということになれば、以前から大体2500万円くらいかかるというお話もさせていただいておりますし、仮に二子以降全員半額とかパターンを計算する中で、金額については町長、財政担当課へもご相談させていただいた中で、今回ご決断をいただいたと考えておりますので、必要に応じてこういったパターンであれば、こういった金額かということは町財政担当課へもお示しをさせていただきたいと考えております。

●議長（佐藤武雄） 伊藤議員。

◆4番（伊藤博美） 財政的な観点から考えていく上でもやはりきちんとしたシュミレーションを持って、計画を立てるということは非常に大事だろうと思いますので、ぜひこれらについてもやっていただきたいと思います。さて、食品の値上げが続いているわけですが、町長もご存じだと思います。2月に5528品目が上がりました。そしてまた3月は3442品目が上がっております。更に4月にかけては4892品目が値上げを見込んでいると報道されております。だからこそ、この給食費というものに対する無償化を求める声がやむことはないだろうと私は思います。国の方で岸田首相が、異次元の少子化対策をとると言っておりますが、中身が分かりました。どのような政策を立ててくるか分かりませんが、具体的には示しておりませんが、3月いっぱいの中で何か政策を取りまとめるというふうには聞いております。ですから、4月になるかあるいは5月か何かで、具体的な政策を対応策を出してくるだろうと思いますけれども、信濃町でもそうした無償化を求める声に対して、もし万が一、国の方で交付金ですとか、そういうものが出た場合には1つ積極的に使っていただいて、子育て支援に少しでも助けになる方法をとっていただきたいと思いますが、町長の考えをお伺いします。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） 今、国会の方でいろいろ議論されている内容につきましては、具体的な中身、スケジュール等が明らかになった時点で、町として取り組める部分があれば、あるいはそういった制度が新たに創設されたということであれば、迅速に対応できるように準備してまいりたいと思います。

●議長（佐藤武雄） 伊藤議員。

◆4番（伊藤博美） ぜひしっかりとした対応を取っていただきたいということをお願いしたいと思います。さて、子育て世代の皆さんがこの信濃町で暮らしていきたいと、町外から移り住みたいとそんな町づくりのためにも、保育園の充実は欠かせない訳ですが、そうした保育園も含めて給食の無償化、ぜひ信濃町で子育てをしませんかと、というような町づくりをやっていただきたいと、目指していこうではないかと思っております。

令和5年第421回信濃町議会定例会3月会議 会議録（4日目）

無論、議会としても協力はしますし、そして何よりも職員の協力も欠かせません。町長の行政手腕を期待しておりますし、シュミレーションなりの計画を作る時に、ぜひ職員の力を使っただいて、しっかりとした方向を対応をしていただきたいと思いますと思いますが、町長の考えをお聞きいたします。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） ただ今、伊藤議員の話にあったとおりであります。私が役場に勤めるようになりまして3か月が経過いたしました。この間職員の皆さんには予算、議会それぞれの場面で様々な資料を提供いただいたり、過去の経過等についても細かに説明をいただくようなことで対応いただきまして、大変ありがたく思っております。今後も風通しのいい役場を目指して情報を共有して、町民の皆さんにとって明るい明日がくるように取り組んでまいりたいと思っておりますので、議員の皆さんのご協力もまたよろしくお願いいたします。

●議長（佐藤武雄） 伊藤議員。

◆4番（伊藤博美） ぜひ、力を惜しまずに対応をとっていただきたいと思います。次に地域経済の支援について伺います。昨年ですか、昨年の議案第92号で補正9号ですけれども、採択されました。農業振興費の新型コロナ重点交付金、これ今行われていると思うんですが、農家の皆さんの利用状況、あるいは活用状況というものほどのような状況になっておりますか、お伺いします。

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳喜夫） 現在の執行状況等についてお答えいたします。2月末で当初計画していたところでしたが、3月15日までと締め切りの方を延長しているところです。それで、昨日現在で156件、672万円の申請状況という数字になってございます。

●議長（佐藤武雄） 伊藤議員。

◆4番（伊藤博美） 予定された額からしますと、およそ半分くらいなんではないか、この申請されているのが。そこで、交付金が1365万円が計上されておりますけれども、これ利用しなければ交付金ですから、返納という形になるんですよ。そこで約半額しか利用されていないというのはどこに問題があるのかなど。課題はどこにあるのかなど考えなければいけないと思うんですが、町の方でこれは利用するにあたっての問題点、あるいは課題というものが見えてきておりますか。

令和5年第421回信濃町議会定例会3月会議 会議録(4日目)

●議長(佐藤武雄) 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長(佐藤巳喜夫) 今回、添付書類に令和4年度分の収支の決算書の写し等付けていただくというような形になってございます。申告期限が3月15日までということもございまして、申告に合わせてという方もいらっしゃるのかなと思いますので、それに合わせて交付金の締め切り等もございしますが、ギリギリまでということで今回延長したところです。最終的には最後の数字がまだ見えない状況ですけれども、また数字が出てきたところで考えていきたいと思います。

●議長(佐藤武雄) 伊藤議員。

◆4番(伊藤博美) そうしますと、今の中で156件642万円ということで約半分だということ、2月末から3月15日まで伸ばしたということですが、場合によっては更に延長するという事も考えていると受けてよろしいでしょうか。

●議長(佐藤武雄) 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長(佐藤巳喜夫) 交付金の事務処理の関係がありまして、支払いが3月末実績がすぐということもございまして、今のところ3月15日以降は事務的に対応が難しいと考えておりますので、最終は3月15日と考えています。

●議長(佐藤武雄) 伊藤議員。

◆4番(伊藤博美) 農家の皆さんもそれぞれ苦勞していると思うんですね。私どもが農家の方と会った時はそういう話をして促しているわけですし、なによりも私どもの党の機関紙黒姫民報でも掲載をして情報を共有を図っております。ぜひ、農家の皆さん方が積極的に理用していただけるように考えております。肥料価格の関係ですけれども、農業物価指数で昨年度は4割ほど上回っていると聞いております。原因としてはこれは当然のことながら、ロシアが資産国である塩化カリ、これが不足しているという点、あるいは世界の生産量を誇るもう一つ、中国がリンを規制しているところにも原因があると思いますけれども、農家が期待しているのは生産資材の高騰分の直接的な補填が出来ないのかということとはよく聞いています。大きな問題だと思いますが、農家が期待している国からのこうした補填、あるいは補正というものはあるんでしょうか。

●議長(佐藤武雄) 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長(佐藤巳喜夫) 今のところそういった情報は入っておりません。ですが、そのような情報が入り次第、またどんな対応策ができるかということを考えていきたい

令和5年第421回信濃町議会定例会3月会議 会議録（4日目）

と思います。

●議長（佐藤武雄） 伊藤議員。

◆4番（伊藤博美） ぜひ情報が入り次第、適切な対応をお願いしたいと思います。最後の問題ですが、暮らし、それから福祉の住民の願いについてお伺いします。これは何回も取り上げてきましたが、具体的には補聴器関係の課題ですけれども、購入時の助成について、町長が12月の会議でこれまでの経過も確認しながら、そしてまた具体的な対応、答えを出しますというふうに答えております。経過も確認していただいたかと思えますし、対応はどうするのかこれを伺います。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） ただいまの伊藤議員のご質問でございますが、補聴器の購入についてであります。補聴器を購入される方への支援に関しましては、当町においては国の制度を活用した補助金支給制度を実施しております。具体的には、障害者手帳をお持ちの方には、国の補助事業、これは国が2分の1、県が4分の1、本人が10分の1ということですので、町は15パーセントの上乗せをしているということでもありますけれども、そのような補助をさせていただいております。また障害者手帳の交付に至らない難聴の方に対しましては、補聴器の購入について補助している自治体もあるということは承知をしていることではありますけれども、他の疾病への対応とのバランスも考えなければならぬかなと感じております。現時点の制度、先ほど申し上げましたような国の制度がありますが、これは十分とは言えないかもしれませんが、近隣自治体あるいは国の動向を注視しながら引き続き検討させていただきたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願ひしたいかと思ひます。

●議長（佐藤武雄） 伊藤議員。

◆4番（伊藤博美） この議論は私もこの席で6回ぐらいやってきているんじゃないかと思うんです。前横川町長の時から何回もやってきました。障害者手帳を持っている方の補助ということも十分承知しています。ただそうでない、そこに手帳を持たない方というのが非常に多くなってきていると。そのなってくるにつけて、認知症との関係で言いますと、非常に難聴の人たちがなりやすくなってきているということも、何回もここで述べてまいりました。ぜひ、健康面もありますけれども、財政的問題もあるんでしょうけれども、私そんなに財政的に多くの負担になるというふうには考えておりません。昨年9月議会だったかと思うんですが、申し上げたのはこれを作るにあたっての要綱に触れますけれどもということで、断りながらお伝えしたのが30万円ということ横川前町長に申したことがあります。これはどこでもやっていることなんです、例えば大

令和5年第421回信濃町議会定例会3月会議 会議録(4日目)

体1万5000円から2万5000円、あるいは3万5000円というものを補助しているわけですが、各自治体は。その中で私が考えたのは1人3万円1回だけだと、年間10人というふうに区切った場合、30万円の予算でできるのではないかとということも申し上げてきました。残念ながらまだ実現という方向にはなっておりませんが、財政的に考えた場合にこれも確か前の議会で申し上げたことがあるんです。この予算を使えばいいんじゃないんですかということも申しましたけれども、答えにはなりません。財政的な問題も含めて何とでもお年寄りの皆さんの認知度、認知症にかからない一つのステップが、難聴を解消することだと言われております。ですから、一人でも多くの高齢者の皆さんが、そうした難聴にならないためにも、認知症にならない、遅らせるためにも補聴器というのが必要なんだというのが1点、もう1点は補聴器を買うに当たりましても高価なものなんです。30万円、40万円というものがあります。集音器という簡単なものもありますけれども、これはあくまで集音器ですから補聴器の機能を果たすことではないんです。やはり非常に高価なものになりますから、これにほんの僅かでも補助をするというふうなことを、これからの高齢化社会を迎えるにあたってぜひひとつ鈴木町長、新しい町長の前で考えていっていただきたいと思います。あえてお答えをということは申しませんが、町長の中でしっかりと受け止めていただいて、これからの議論の中で実現を果たしていく方向を見出していきたいと思いますのでお願いしたいと思います。以上で私の一般質問を終わらせていただきます。

- 議長（佐藤武雄） 以上で、伊藤博美議員の一般質問を終わります。この際申し上げます。10時50分まで休憩といたします。

(終了 午前10時36分)